

科 目 名		教 育 方 法 論 (教 育 方 法 論)				担 当 者 氏 名		長谷川 豊	
英 訳		Theories of Educational Method							
科目コード	1001000 (9253001)	配当学年	2 - 4	授業形式	講 義	共 用 科 目		教	
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	水・5	教 室	吉田南共北28		
授 業 内 容									
現代学校にあっては生徒に確かな学力と豊かな人格を育てるという教育目的の達成が期待されている。そのゆえに教師には生徒に働きかける（指導、援助・支援する）方法・技術の確立が強く要請される。現代日本の子どもにおいては「学びからの逃走」と言われる状況がある一方、その「学力」をめぐる論争が繰り返され、そのことがまた近年の学校教育「改革」に拍車をかける様相を呈している。教師たちは制度や政策等の外枠に規定されつつも、学校・学級における目の前の子どもたちの現実にも即しながら、「授業」を含む日常的教育実践において設計——実践——評価という一連のプロセスを通じて教育目的の達成を目指している。 本講義では、現在の子どもの学びのあり様や教育実践を規定する制度・政策等を踏まえながら、①教育の目的・目標・内容、②教育課程とその編成、③教授・学習過程としての授業、④教科書、教材研究と教材づくり、⑤学級編成と教育方法、⑥教育評価の理論と方法、⑦教育方法の課題と新たな展開など、について考察する。									
テキスト 参考文献	参考書：天野正輝『教育方法の探究』晃洋書房（1995）、佐藤学『教育方法学』岩波書店（1996）、天野正輝編『現代教育実践の探究』晃洋書房（1998）、グループ・ディダクティカ編『学びのためのカリキュラム論』勁草書房（2000）								

科 目 名		発 達 教 育 論 II				担 当 者 氏 名		遠 藤 利 彦	
英 訳		Human Development & Education II							
科目コード	1411000 (9228001)	配当学年	2－4	授業形式	講 義	共 用 科 目		教	
単 位 数	2	開 講 期	前期	曜 時 限	水・2	教 室	265講義室		
授 業 内 容									
近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から思春期くらいにかけての子どもの身体的発達、認知的発達、社会情緒的発達の様相と機序について概説し、それらに養育環境、とりわけ種々の関係性（母子関係、父子関係、きょうだい関係、仲間関係など）および社会文化の諸特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて考察を行う。また、早期段階における個人差が何に起因して生じるかを遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえながら解説した上で、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するかなどについても論考することにした。さらに、現代社会の子育て事情を俯瞰しながら、子どもに関わる養育者の育児行動やそれに絡む意識などがいかなる要因の影響を受けて準備・形成されるかについてもふれることにしたい。 本講義は、発達教育論Ⅰ（来年度開講）とともに「発達教育論（生涯発達心理学）」の概論として位置づけられるものであるため、ⅠとⅡを併せて受講することが望ましい。									
テキスト 参考文献	参考図書 小嶋秀夫・やまだようこ（編）「生涯発達心理学」放送大学教育振興会 2002年 数井みゆき・遠藤利彦（編）「アタッチメント：生涯にわたる絆」ミネルヴァ書房 2005年 遠藤利彦（編）「発達心理学の新しいかたち」誠信書房 2005年								

科 目 名		生 涯 発 達 心 理 学 基 礎 論 I				担 当 者 氏 名		谷 口 弘 一	
英 訳		Introduction to Life-Span Developmental Psychology I							
科目コード	1126000		配当学年	2－4	授業形式	講 義		共 用 科 目	
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	金・4		教 室	第二講義室
授 業 内 容									
本講義では、児童期・青年期の社会的発達に焦点を当て、児童・生徒にとって身近な他者である親・友人・教師との相互作用とそれを規定する要因について考察する。具体的には、親の養育態度、愛着スタイル、学校ストレス、社会的スキル、ソーシャル・サポートなどといったテーマについて解説を行う。また、本講義は、心理学研究法に関する基礎的知識の習得も目的の一つとしている。調査法を中心に、質問紙の作成・データ収集・分析・結果の整理などの具体的な研究手順について、統計的分析法も踏まえながら、分かりやすく解説を行う。									
テキスト 参考文献									

科 目 名		生 涯 発 達 心 理 学 講 義 I				担 当 者 氏 名		明 和 政 子	
英 訳		Basic Lecture on Life-Span Developmental Psychology I							
科目コード	1128000		配当学年	2－4	授業形式	講 義		共 用 科 目	
単 位 数	2		開 講 期	後期	曜 時 限	月・2		教 室	265講義室
授 業 内 容									
ヒトを特徴づける高度な知性は、どのような生物学的基盤をもち、いつ頃どのように、ヒト特有のものとなるのだろうか。本講義では、ヒトを含めた霊長類（サルやチンパンジー）の知性の発達を実証的に比較するアプローチ、「比較認知発達科学」による最新の研究成果を紹介しながら、以下の2点について考察することを目的とする。1）ヒトの知性の独自性、あるいはヒト以外の霊長類との共通性はどのようなものか、2）ヒト独自の知性の起源はいつごろ見いだされるのか。 第1回 はじめに――ヒトの心の進化と発達道のすじを調べる方法「比較認知発達科学」 第2回 新生児にとって外界はどのように映っているのか（赤ちゃんの心を探るための方法論、視覚の発達） 第3回 「他者」と「モノ」が区別できる（他者らしい刺激（顔・動き）を見いだす新生児の能力） 第4回 祖先から受け継いだ術「モジュール」（さまざまなモジュール説、新生児期の共感覚性） 第5回 見つめあうコミュニケーションのはじまり（見つめあいの生物学的基盤、視線の検出、新生児模倣） 第6回 個別の他者に気づく（他者の顔の認識、模倣の発達、視線追従） 第7回 表情を介したコミュニケーション（表情の適応的意義、微笑の生物学的基盤とその発達） 第8回 自己意識の芽ばえ（鏡に映る自己像の認知、時間的・空間的随伴性にもとづく自己身体認知） 第9回 「いま・ここ」を超える自己意識（鏡のような他者の役割、他者の意図の理解） 第10回 胎児期からの行動観察にもとづく「比較発達認知科学」（超音波画像診断装置（4D）による胎児の行動観察、自己身体探索行動） 第11回 胎児に心はあるのか（胎児期の外界刺激への応答性、記憶能力） 第12回 まとめ――ヒトらしさの起源はどこにあるのか？									
テキスト		テキスト：講義内で指示する							
参考文献		参考文献：講義内容にそって適宜紹介する							

科 目 名		生 徒 指 導 論 (生徒指導論)				担 当 者 氏 名		築 山 崇	
英 訳		Guidance for Personal Development							
科目コード	1006000 (9218001)		配当学年	2－4	授業形式	講 義	共 用 科 目		教
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	火・2	教 室	吉田南共東22	
授 業 内 容									
講義全体テーマ 現代に生きる子ども・青年の可能性をひらく教育・学習実践 子ども・青年は将来に向けて多様な可能性をもつ存在である。しかし、この可能性の実現は、時代・社会状況によって大きな影響を受けるものであり、その過程にかかわる教育的働きかけ・指導は、彼らとともに現代社会と対峙し、その制約を乗り越える協同の営みといえる。本講義では、そのような、現代の子ども・青年と社会との関係の認識を踏まえ、現代に生きる子ども・青年のリアルな姿に迫り、彼らの願い・悩み・葛藤を読み取ることを行なう。同時に、現代社会の諸矛盾が、どのようなかたち・経路で、学校教育の中に浸透していつているのかを探るとともに、子ども・青年とともに彼らの未来を切り拓こうとする教育実践に学んでいきたい。さらに、子ども・青年の可能性の実現はひとり学校教育によって成し遂げられるのではない点をふまえ、公的社会教育、地域で展開される多様な学習・文化活動にも学んでいきたい。毎回の講義はおおよそ次のような項目にそって進めることとする。受講者自身が自らの可能性の実現の方途を探る問題意識をもって参加してほしい。 1. いま輝く子ども・青年の姿（表現する喜び） 2. 現代に生きる子ども・青年の苦悩と希望 3. 子どもとともに未来を切り拓く教育実践（中学、高校を中心に） 4. 子ども・青年をめぐる制度・政策の動向（教育・福祉） 5. 子ども・青年の発達と地域創造教育 6. 子ども・青年の発達と教師の自己形成									
テキスト									
参考文献									

科 目 名		精 神 保 健 I				担 当 者 氏 名		新 宮 一 成	
英 訳		Mental Health I							
科目コード	1161000	配当学年	2 - 4	授業形式	講 義	共 用 科 目		他	
単 位 数	2	開 講 期	前期	曜 時 限	水・3	教 室	吉田南4 共11教室		
授 業 内 容									
（授業のテーマと目的） 精神を病むということの意味を、社会、歴史、無意識などの多層的な文脈から深く理解する力を身につける。また精神医学の臨床の実相を知って、病を単なる心の異常としてではなく、疾患として明確に把握する思考法を学ぶ。 （授業計画と内容） 1. 神経症は日常生活と地続きの経験であり、一方精神病は疾患としての独自の世界を持っている。その差異はどこにあるかを、精神医学の歴史、精神科の症例、そして無意識理論を通じて考察する。 2. 統合失調症（精神分裂病）について学ぶ。自己と他者という人間生活にとって基本的な枠組みが、病においてはどのように変容してゆくのかを学び、人間と人間との関係の危うさについて考える。 （履修要件） 後期の「精神保健学基礎論B」では、気分障害（躁鬱病）や神経症などについて学ぶ。精神障害のおおよその全体像を把握していただくため、前期・後期の連続履修を条件とします。									
テキスト 参考文献	（教科書）新宮一成『無意識の病理学』（金剛出版）ISBN：4-7724-0322-1 （参考書等）笠原『精神病』（岩波新書）								

科 目 名		精 神 保 健 II				担 当 者 氏 名		新 宮 一 成	
英 訳		Mental Health II							
科目コード	1162000	配当学年	2－4	授業形式	講 義	共 用 科 目		他	
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	水・3	教 室	吉田南4共11教室		
授 業 内 容									
(授業のテーマと目的) 精神を病むということの意味を，社会，歴史，無意識，生物学的知見などの多層的な文脈から理解して，精神疾患に対する偏りのない見識を涵養し，疾患に関する科学的知識を身につける。 (授業計画と内容) 1．気分障害（躁鬱病）について学ぶ。精神障害は社会的な存在としての人間に課せられた重荷であり，さまざまな理想と現実，倫理と逸脱などの規範に関わりのある現象である。 2．精神疾患の治療の現状を学ぶ。 (履修要件) 前期の「精神保健学基礎論A」と合わせ，精神障害のおおよその全体像を把握していただくため，前期・後期の連続履修を条件とします。									
テキスト 参考文献	(教科書) 新宮一成『無意識の病理学』（金剛出版）ISBN：4-7724-0322-1 (参考書等) 芝仲太郎『うつを生きる』（ちくま新書）								

科 目 名		障 害 児 教 育 の 教 育 課 程 論				担 当 者 氏 名		玉 村 公二彦	
英 訳		Curriculum Study of Special Education							
科目コード	1114000		配当学年	2－4	授業形式	講 義		共 用 科 目	
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	月・4		教 室	第1演習室
授 業 内 容									
本講義では、まず、障害児の教育を受ける権利の保障の歴史と制度を示し、今日における学校教育での障害児の発達と障害について考えながら、障害児教育の実践をどのように構想し、創造していくかを考えていくことを課題とする。具体的には、以下のような項目で講義を進める。 なお、現代的なトピックについても、その都度取り上げていくこととしたい。 1. 障害児教育とその教育課程の歴史——特別支援教育を視野に入れて 2. 教育実践の基盤としての現代の障害者観・障害児教育制度 3. 障害児の発達と教育課程 4. 重症心身障害児、重度障害児と教育課程・教育実践 5. 発達障害児と教育課程・教育実践（自閉症・知的障害など） 6. 病弱・情緒障害などへの配慮と教育課程・教育実践 7. 軽度発達障害児と教育課程・教育実践									
テキスト 参考文献	玉村公二彦『障害児の発達理解と教育指導——「重症心身障害児」から「軽度発達障害」まで』三学出版、2005年								

科 目 名		教 育 方 法 学 基 礎 演 習 I B				担 当 者 氏 名		やまだ ようこ	
英 訳		Seminar on Curriculum, Instruction and Human Development I B							
科目コード	1475000	配当学年	2－3	授業形式	課題演習	共 用 科 目			
単 位 数	2	開 講 期	前期	曜 時 限	木・2	教 室	320		
授 業 内 容									
〈発達教育分野〉フィールドワークと質的心理学の方法を実践的に学ぶ 「フィールドワーク KYOTO ― 伝統の継承と生成」というテーマで、京都の伝統を創り、支え、伝え、育てている人々との対話・インタビューを通して、現場（フィールド）心理学と質的心理学の方法論を学ぶ。市井に生きるひとりひとりの人々が、私たちの教師である。彼らの人生の物語（ライフストーリー）を聴き、その「生きたことば」から学んでみよう。 この演習では、上記のテーマについて、研究計画の立て方、インタビューの方法、語り（ナラティブ）の分析、質的データのまとめ方と発想法、論文の書き方などの研究方法の基礎を実践的に学ぶ。 なお、将来的に「発達教育分野」（生涯発達心理学等）で卒業論文を作成する可能性のある者は、本課題演習で方法論の基礎を実習するので、必ず受講すること。また、併せて来年度開講される「教育方法学基礎演習ⅠA」（ⅠAとⅠBは隔年交替で開講）を受講することが望ましい。また、可能な限り「発達教育論Ⅰ・Ⅱ」も併せて受講されたい。初回授業時に本課題演習ならびに「発達教育分野」における望ましい授業の取り方などについてガイダンスを行うので、履修予定者はなるべく出席すること。									
テキスト 参考文献	川喜田二郎「発想法」中公新書 参考書：やまだようこ（編）「人生を物語る ― 生成のライフストーリー」ミネルヴァ書房								

科 目 名		教 育 方 法 学 基 礎 演 習 II B				担 当 者 氏 名		田 中 耕 治 西 岡 加名恵	
英 訳		Seminar on Curriculum, Instruction and Human Development II B							
科目コード	1477000	配当学年	2－4	授業形式	課題演習	共 用 科 目			
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	木・2	教 室	320		
授 業 内 容									
〈教育方法論 教育課程研究の基礎・基本〉 教育課程とは、「子どもたちの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営み」である。現在、様々な教育問題が取り沙汰される一方で、教育の規制緩和が進んでおり、改めて「学校とは何か」「学校はどのような教育課程を提供すべきなのか」が問われている。そこで本演習では、教育課程論に関する基礎文献を読み深めるとともに、学校現場を訪問して現代の教育事情をリアルに把握しようと思う。									
テキスト 参考文献	テキストは、授業開始時に指定する。								

科 目 名		教 育 方 法 専 門 ゼ ミ ナ ー ル I				担 当 者 氏 名		田 中 耕 治 西 岡 加名恵	
英 訳		Seminar on Curriculum and Instruction I							
科目コード	1472000	配当学年	3－4	授業形式	課題演習	共 用 科 目		院	
単 位 数	2	開 講 期	前期	曜 時 限	火・4	教 室	第3演習室		
授 業 内 容									
この演習では、主に卒業論文、修士論文の指導を中心として、各自の課題意識に従って、理論的・実証的研究成果を発表し、それに基づく共同の論議の中から、さらなる理論的・実証的探究が生み出されていくことをめざすものである。 とりわけゼミナールⅠでは、発表者は、先行研究の到達点をふまえて、テーマや仮設の設定を中心にして、詳しいレジュメを事前に準備する必要がある。また、当日に発表しない者も、研究方法ならびに論文作成能力の向上を期して、この検討論議に積極的に参加することが求められる。									
テキスト 参考文献									

科 目 名		教 育 方 法 専 門 ゼ ミ ナ ー ル II				担 当 者 氏 名		田 中 耕 治 西 岡 加 名 恵	
英 訳		Seminar on Curriculum and Instruction II							
科目コード	1473000	配当学年	3－4	授業形式	課題演習	共 用 科 目		院	
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	火・4	教 室	第3演習室		
授 業 内 容									
ゼミナールⅠに引き続いて、この演習では、主に卒業論文、修士論文の指導を中心として、各自の課題意識に従って、理論的・実証的研究成果を発表し、それに基づく共同の論議の中から、さらなる理論的・実証的探究が生み出されていくことをめざすものである。 とりわけゼミナールⅡでは、発表者は、完成稿を念頭において、詳しいレジュメを事前に準備する必要がある。また、当日に発表しない者も、研究方法ならびに論文作成能力の向上を期して、この検討論議に積極的に参加することが求められる。									
テキスト 参考文献									

科 目 名		発 達 教 育 専 門 ゼ ミ ナ ー ル I				担 当 者 氏 名		やまだ ようこ		
英 訳		Seminar on Human Development I								
科目コード	1405000		配当学年	2－4	授業形式	課題演習		共 用 科 目		院
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	水・4		教 室	第3演習室	
授 業 内 容										
〈ライフストーリー・インタビュー〉 ――語りやライフストーリーを、インタビューでどのようにとらえるか、どのように分析するか？―― 「物語的転換」と呼ばれる広義のナラティブ・アプローチ、ライフストーリー研究のテキストを中心に、最新の研究書や論文も交えて読みながら、その基本的な考え方と方法論を学ぶ。 「語り」データをどのようにインタビューでとらえるのか、「語り」データをどのように分析するのか、「語り」から何を見いだしていくのか、質的データの分析法と研究法を学び、その具体例から「語り」そのものも持っているおもしろさを味わうことができること（「意味」という日本語に「味」という字が含まれていることの深い含蓄を味わってほしい）、それがこの授業の一番おきなねらいである。 語り研究においては、〈ものの見方の革命〉（認識論）と、〈アプローチの方法〉（方法論）は、深い相互関連がある。 広く「ことば」とは何か？あるいは「人生」とは何か？に関心をもち、ことばで語るといふ「意味づける行為」をフィールドで身をもって経験的にとらえてみたいという方の積極的参加を期待する。 最近大きな注目をあびている「質的心理学の研究法」について実践的に学ぶためには、本論と併せて「教育方法基礎演習ⅠA」を受講し、実際にインタビュー法の実習を行うことによって、さらに理解が深まるであろう。										
テキスト 参考文献	桜井厚・小林多寿子編 2005「ライフストーリー・インタビュー：質的研究入門」せりか書房 「質的心理学研究」1, 2, 3, 4号, 5号（新曜社）									

科 目 名		発 達 教 育 専 門 ゼ ミ ナ ー ル II				担 当 者 氏 名		遠 藤 利 彦		
英 訳		Seminar on Human Development II								
科目コード	1406000		配当学年	3 - 4	授業形式	課題演習		共 用 科 目		院
単 位 数	2		開 講 期	後期	曜 時 限	水・4		教 室	第3 演習室	
授 業 内 容										
生涯発達心理学の展開を俯瞰する上で不可欠となる基本文献を精読した上で、関心を共有する数名の者からなる小グループに分かれ、それぞれが、これからの生涯発達研究においては何か必要となるのかを深く考察し、オリジナリティの高い特定の研究テーマを設定する。そして、そのテーマに沿って先行研究の批判的なレビューおよび具体的な方法・手続きを伴う研究計画の立案を行う（場合によっては小規模の予備的データの収集を行うこともあり得る）。この演習の目的は、現代生涯発達心理学のホットなトピックを見極めると時代先の先を読んで新しい研究テーマを切り開く感性やスキルを身につけることであり、また文献レビューの方法や研究デザインの組み方等について具体的な示唆を得ることである。										
テキスト 参考文献		授業時に適宜指示する。								

科 目 名		教 育 方 法 講 読 演 習 I				担 当 者 氏 名		鋒 山 泰 弘	
英 訳		Reading in Curriculum and Instruction I							
科目コード	1468000		配当学年	3 - 4	授業形式	講読演習	共 用 科 目		院
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	金・4	教 室	1 演	
授 業 内 容									
イギリスにおける教員養成・新任教員研修のテキストとして評価の高いアンドリュース・ポラード編著の『反省的教授』を読んでいくことによって、現代の教育方法学の基本概念に関する英文理解能力の向上を目的とする。演習Ⅰでは、以下のような主題について読むことを予定している。 ・反省的教授とは ・教師教育における学び ・教室の事実に基づいた研究の展開 ・教師がおかれている社会的文脈 ・教職の価値と教師のアイデンティティ ・教師がおかれている人間関係 ・児童の発達と学びをいかに理解するか									
テキスト 参考文献	Andrew Pollard (2005) <i>Reflective Teaching, 2nd Edition</i> . Continuum.								

科 目 名		教 育 方 法 講 読 演 習 II				担 当 者 氏 名		鋒 山 泰 弘	
英 訳		Reading in Curriculum and Instruction II							
科目コード	1469000	配当学年	3 - 4	授業形式	講読演習	共 用 科 目		院	
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	金・4	教 室	1 演		
授 業 内 容									
イギリスにおける教員養成・新任教員研修のテキストとして評価の高いアンドリュー・ポラード編著の『反省的教授』を読んでいくことによって、現代の教育方法学の基本概念に関する英文理解能力の向上を目的とする。演習Ⅱでは、以下のような主題について読むことを予定している。 ・カリキュラムとは何か ・カリキュラムをいかに編成するか ・教室経営をいかに行うか：学級組織について ・教室経営をいかに行うか：生徒の行動について ・コミュニケーション：教室におけるその特徴 ・教授方法をいかに発展させるか ・評価：学習とパフォーマンスをいかに点検するか									
テキスト 参考文献	Andrew Pollard (2005) <i>Reflective Teaching, 2nd Edition</i> . Continuum.								

科 目 名		発 達 教 育 講 読 演 習 I				担 当 者 氏 名		遠 藤 利 彦	
英 訳		Reading in Human Development I							
科目コード	1413000	配当学年	3 - 4	授業形式	講読演習	共 用 科 目		院	
単 位 数	2	開 講 期	前期	曜 時 限	火・3	教 室	320		
授 業 内 容									
私たちが日々、経験し、また表出する種々の感情は、私たち個々人の内的生活や心理的適応において、また私たち個人と他者との関係性の構築や維持において、さらに私たちを取り巻く社会・文化的風土（climate）の形成において、きわめて多様かつ不可欠の役割を果たしていると考えられる。この演習では、感情と人間関係、集団、文化との関わりなどについて広く概観・整理した一冊のテキストを批判的に精読することを通して、私たちの日常の社会的な生活全般における感情の機能と意味について深く統合的に考究することにした。									
テキスト 参考文献	（候補）Parkinson B., Fischer, A. H., & Manstead, A. S. R. (2004). <i>Emotion In Social Relations: Cultural, Group, and Interpersonal Processes.</i> (Psychology Press.)								

科 目 名		発 達 教 育 講 読 演 習 II				担 当 者 氏 名		遠 藤 利 彦	
英 訳		Reading in Human Development II							
科目コード	1414000	配当学年	3－4	授業形式	講読演習	共 用 科 目		院	
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	火・3	教 室	320		
授 業 内 容									
人の揺りかごから墓場までの生涯に亘るあらゆる側面の発達において、養育者や配偶者といった特定他者との親密な関係性およびアタッチメントの形成・維持はきわめて重要な役割を果たしていると考えられる。この演習では、特にアタッチメントに関する包括的なテキストを精読することを通して、アタッチメントやそれに密接に絡む子育てや情緒的発達などに関する研究が現在どこまで進展してきているのか、またそうした研究成果に基づいて、種々の発達の問題や障害等に対していかなる実践的・臨床的応用が試みられているのかといったことについて基礎的知見を得、討論を行うことにしたい。									
テキスト 参考文献	(候補) Mercer, J. (2005). <i>Understanding Attachment: Parenting, Child Care, And Emotional Development.</i> (Praeger.)								

科 目 名		学 校 論 ゼ ミ ナ ー ル				担 当 者 氏 名		田 中 耕 治	
英 訳		Seminar on Theories of Schooling							
科目コード	1478000	配当学年	2	授業形式	課題演習	共 用 科 目			
単 位 数	2	開 講 期	前期	曜 時 限	水・2	教 室	第3 演習室		
授 業 内 容									
学校とは何か、学校の再生のためには何が必要かを真摯に問おうとした第二次世界大戦後の著名な教育実践家を取り上げて、その意義や課題について具体的に検討したい。この作業を通じて、受講生は教育方法学の基礎・基本を同時に身につけることができるだろう。									
テキスト 参考文献	田中耕治編著『時代を拓いた教師たち ― 戦後教育実践からのメッセージ』日本標準，2005年。								

科 目 名		教 育 課 程 論 I (教 育 課 程 論 I)				担 当 者 氏 名		田 中 耕 治	
英 訳		Theories of Curriculum Development I							
科目コード	1144000 (9233001)		配当学年	2－4	授業形式	講 義		共 用 科 目	教
単 位 数	2		開 講 期	後期	曜 時 限	水・2		教 室	吉田南共東11
授 業 内 容									
教育課程とは、子どもたちの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営みである。この講義では、教育課程の思想と構造、教育課程の評価のあり方について、具体例を取り上げながら論じていきたい。									
テキスト 参考文献	田中耕治、西岡加名恵他『新しい時代の教育課程』有斐閣、2005年。								

科 目 名		教 育 心 理 学 実 習 A ・ B				担 当 者 氏 名		吉 川 左 紀 子 河 合 俊 雄	
英 訳		Practice in Educational Psychology A・B							
科目コード	(A) 2703000 (B) 2704000	配当学年	2－4	授業形式	実 習	共 用 科 目			
単 位 数	各 1	開 講 期	前・後期	曜 時 限	火・4， 5	教 室	第一講義室		
授 業 内 容									
心理学の基礎実験・テストを通して、主に心理学研究の方法および手続きを学習する。実習科目であるので、授業への参加と各課題についてのレポート提出がとくに重視される。なお、教育心理学実習Aは、京都大学心理学連合共通科目として実施する。第1回、第2回の授業でガイダンス・班分け等を行う。これに欠席するとその後の授業の参加が困難であるので、必ず出席すること。第1回、第2回の授業を実施する教室は、掲示板に掲示する。なお、本科目の後期授業は、前期授業の知識を前提としているため、後期のみの受講は原則として認められない。									
テキスト 参考文献									

科 目 名		心 理 学 統 計 実 習 A				担 当 者 氏 名		吉 田 寿 夫 楠 見 孝	
英 訳		Statistics in Psychology A							
科目コード	2705000		配当学年	2－4	授業形式	実 習		共 用 科 目	
単 位 数	1		開 講 期	前期	曜 時 限	金・2, 3		教 室	265講義室
授 業 内 容									
心理学的研究において多用されているデータの収集法および解析法（前期は、特に後者）に関して、「なぜ、そのような分析を行ったり、データ収集において、そのような考慮をするのか」や「それらが、どのような論理に基づいて考えだされたものであるか」などといった基本的な意味・論理について確実に学ぶことを主たる目的として解説する。ただし、内容は、あくまで統計法（統計学の適用の仕方）に関するものであり、統計学そのものについてのものではない。また、①自他の研究（統計手法の適用）に対して批判的思考をする姿勢・能力の育成、②データと相談しながら、主体的な判断をする姿勢・能力の育成、③統計（数字）に対する絶対視・過大評価の抑制、④『心理学的研究』という文脈を考慮した知識の形成、⑤日常生活に役立つ知識の形成、⑥研究法について生涯学習をするための姿勢・基礎的能力の育成、といったことなどを意識しながら授業を進める。 授業計画の概要としては、まず最初に、得られたデータの特徴を図表や種々の指標を用いて的確・効率的に表現するための方法である記述統計について解説する。つづいて、得られたデータを越えて一般的な問題としてなんらかの結論を下そうとするときに用いられる手法である推測統計（統計的検定）について解説する。また、随時、解説した事柄に関する実習（データ解析に関する種々の練習問題や統計的検定の問題点を理解するためのデモンストレーション実験など）を行う。 なお、基本的にはテキストに沿って授業を進めるが、テキストには記されていない数値的な面などについても随時補足説明を行う。 評価は、主にテスト（テキスト、ノートなどの持ち込みは一切不可）の成績に基づいて行う。									
テキスト 参考文献	テキスト 吉田寿夫 1998 本当にわかりやすい、すごく大切なことが書いてある、ごく初歩の統計の本 北大路書房 *参考文献については、授業中に、随時、提示する。								

科 目 名		心 理 学 統 計 実 習 B				担 当 者 氏 名		吉 田 寿 夫 楠 見 孝	
英 訳		Statistics in Psychology B							
科目コード	2706000		配当学年	2－4	授業形式	実 習		共 用 科 目	
単 位 数	1		開 講 期	後期	曜 時 限	金・2, 3		教 室	265講義室
授 業 内 容									
前期よりもデータの収集法と関連した問題に重きを置きながら、前期の授業ではカバーしきれない、より進んだ、または、より実践的な事柄についての講義・実習を行う。 主な具体的内容は、以下の通りである。 ①（心理学的研究における）統計的検定の不適切な適用、②単回帰分析と相関係数、③測定の妥当性・信頼性、および、その検証活動、④質問紙（尺度）作成上の留意点、⑤（剰余変数の統制の問題に関わる）実験計画法の基礎、⑥分散分析、⑦共分散分析、⑧統制群法の意義およびブリ・ポスト・デザインによるデータの解析、⑨多変量解析の基礎（偏相関分析、重回帰分析、因子分析など）、⑩相関的研究における適切な変動因 なお、評価は、テスト（テキスト、ノートなどの持ち込みは一切不可）の成績およびレポートの内容に基づいて行う。									
テキスト 参考文献	テキストは用いない。 *参考文献については、授業中に、随時、提示する。								

科 目 名		小 児 の 発 育 生 理 と 衛 生 I				担 当 者 氏 名		莊 嚴 舜 哉	
英 訳		Biological mechanism and mental health in child development I							
科目コード	1118000		配当学年	2－4	授業形式	講 義		共 用 科 目	
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	金・1		教 室	第一講義室
授 業 内 容									
Iでは基本的に新生児期までの子どもの発達について講義をおこなう。具体的には、①37億年といわれる生命の長い歴史と人類進化について論じ、人間の行動目的を社会生物学の立場から概論する。②では、生命進化の原動力となった包括適応度という概念を論じ、人類特有の利他的行動、中でも互恵的利他性と道徳の発達についての社会生物学理論を紹介する。③では、行動についての生物学的説明として、入力された情報を意識に具体化し、行動に置き換えていくニューロン活動と情報の化学的伝達の仕組みを論じ、情報処理メカニズムを神経解剖学及び生理心理学の視点から、脳のモジュール理論をふまえながら概論する。その後、④感情の動物である人類は、動因に直結している情動をどのような仕組みで、認知が介在する感情に置き換えていくのか、情動と感情の関係について論じる。⑤では、受胎から誕生までの胎児期発達について概論し、胎児期に発生する異常や胎児の持つ様々な能力について説明する。更に、⑥新生児期の行動発達及び遺伝的要因としての気質や知能、感情の発達について、クラウスとケネルの研究などを引用しながら概説する。									
テキスト 参考文献	莊嚴舜哉著 文化と感情の心理生態学 金子書房 3500円								

科 目 名		小 児 の 発 育 生 理 と 衛 生 II				担 当 者 氏 名		荘 厳 舜 哉	
英 訳		Biological mechanism and mental health in child development II							
科目コード	1119000		配当学年	2－4	授業形式	講 義		共 用 科 目	
単 位 数	2		開 講 期	後期	曜 時 限	金・1		教 室	第一講義室
授 業 内 容									
IIでは、子どもが誕生した後、すなわち乳児期以後の子どもの発達について講義をおこなう。具体的には、①新生児期に見られる多様な能力について、乳幼児期に見いだすことのできるソフト・サインにまで踏み込んで論じる。②では、10ヶ月齢以後に具体的に現れてくる、母子のアタッチメントについて概論する。次いで、③乳幼児の認知発達について、心の理論（ToMM）や2項表象、3項関係などについて論じる。④では、アタッチメントという現象が生物学的背景を持つにも関わらず、なぜ文化の影響を受けるのか、人間の発達と文化環境の相互作用について概論する。その後、⑤幼児期の子どもの発達について、主に認知と社会的行動の発達について概論し、生物学的存在から社会的存在への移り変わりについて多角的に論じる。更に、⑥「terrible two」と呼ばれる、2歳から3歳にかけての幼児期における子どもの心の発達について、自己概念の成立や子どもを取り巻く周辺環境との相互作用について論じる。⑦では、人間の意識の潤滑油であるともいわれる感情発達について論じ、児童虐待を含む親子の相互作用が、子どもの心の健康においてどのような影響を及ぼすかについて論じる。最後に、⑧生態学的環境との緩衝物として、人類が創り出した文化が意識構造にどのような影響を与えているのか、心理人類学という新しい学際領域に向けての試みをディベートしたい。									
テキスト 参考文献	荘厳舜哉著 文化と感情の心理生態学 金子書房 3500円								

科 目 名		認 知 心 理 学 概 論 I				担 当 者 氏 名		吉 川 左紀子	
英 訳		Introduction to Cognitive Psychology I							
科目コード	2043000		配当学年	2－4	授業形式	講 義		共 用 科 目	
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	火・3		教 室	第一講義室
授 業 内 容									
本講義では、パターン認識、注意、記憶、イメージ、感情に関する認知心理学の代表的な研究、最新の研究を手がかりに、人間の認知過程の特徴を概説する。授業中にいくつかの心理実験を行い、遂行結果が人の認知のどのような特徴を反映しているかを考えることを通して、「知」と深く関わる心の働きについて理解を深める。認知心理学概論Ⅱと合わせて受講することが望ましい。数回のミニレポートの提出を求める。									
テキスト 参考文献	授業中に指示する。								

科 目 名		認 知 心 理 学 概 論 II				担 当 者 氏 名		楠 見 孝	
英 訳		Introduction to Cognitive Psychology II							
科目コード	2044000		配当学年	2－4	授業形式	講 義		共 用 科 目	
単 位 数	2		開 講 期	後期	曜 時 限	火・3		教 室	第一講義室
授 業 内 容									
人間の hochi 認知過程の基本的特性を、認知心理学、認知科学の主要な理論とモデル、実験データに基づいて検討する。あわせて、教育における応用についても検討する。学生の発表、デモンストレーション実験、討論、ビデオの視聴などをおこないながら授業を進める。 取り上げる内容は、学習（知識獲得、熟達化）、知能、創造性、問題解決、類推、比喩、概念、演繹推論、帰納推論、批判的思考、直観的推論、リスク認知、意思決定、応用認知心理学（広告、ユーザインタフェースなど）、コネクショニストモデルなどである。									
テキスト 参考文献	授業中に指示。 http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/cogpsy/kusumi/ の授業ページに掲載する								

科 目 名		人 格 心 理 学 概 論 I				担 当 者 氏 名		岡 田 康 伸 和 田 信		
英 訳		Personality Psychology I								
科目コード	2031000		配当学年	2－4	授業形式	講 義		共 用 科 目		教
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	火・2		教 室	第一講義室	
授 業 内 容										
心理臨床を学び、実践していくにあたって、精神病の問題を避けて通ることはできない。一過性の関係念慮と統合失調症（精神分裂病）の発症とはどう違うのだろうか。抑うつ状態に陥っている人をどう捉え、どのような対処を選択すべきなのだろう。 心理学、臨床心理学に様々な異なる立場や考え方があるように、精神医学においても多様な学問的アプローチがひしめきあっている。心理学理論の諸説に加え、生物学的研究や薬物療法などの進歩も著しく、精神医学はまさに学際的探究と実践が求められる分野である。心理学的精神医学と生物学的精神医学といった二分法さえ、最近では必ずしも明らかなものとは言えなくなりつつある。 講義では、古典から現代に至る代表的な精神病理学を参照しながら、精神医学が対象とする諸病態について概説していく。統合失調症（精神分裂病）や躁うつ病などの代表的疾患に加え、境界例や解離など現代新たに問題となっている病態もとりあげてそれらの捉え方や治療的関与を示していきたい。 学問的説明のみでなく、精神科医として実際の臨床場面での経験に即して解説する。 将来心理臨床に携わる方だけでなく、病という場を通した広い人間知の一つとして精神医学に触れる機会としていただければ幸いである。										
テキスト 参考文献										

科 目 名		人 格 心 理 学 概 論 II				担 当 者 氏 名		岡 田 康 伸	
英 訳		Personality Psychology II							
科目コード	2032000		配当学年	2－4	授業形式	講 義	共 用 科 目		教
単 位 数	2		開 講 期	後期	曜 時 限	火・2	教 室	第一講義室	
授 業 内 容									
今年度は教育相談を念頭に人格心理学を概説したい。教育相談（カウンセリング）するためには、子ども達がどのような人格特性があるかを理解していなければならない。このために、人格査定や人格の形成に関する要因を述べる。具体的には I 人格の形成に関する要因 1）人格とは 2）環境的要因 3）身体的要因 4）心理的要因 II 心理査定 1）質問紙法 2）投影法 3）作業法 III カウンセリングにおける人格理論 1）フロイトの考え 2）ユングの考え 3）アドラーの考え 4）ロジャーズの考え 5）トランスパーソナル心理学の考え IV カウンセリングの実践 1）カウンセリングの構造 次の3点は、カウンセリングを実施していくために重要な基本である。①時間設定、②場所設定、③料金契約。しかし、学校においてはこれらを柔軟に対処しなければならないであろう。これらのことの意味を論じたい。 2）カウンセリングの事例 学校における事例、特にスクールカウンセラーによる事例をもとに、カウンセリングの実践を学ぶ。 3）倫理について 守秘義務など、カウンセラーとしてあるべき倫理について論じる。また、カウンセラーとしての資質についても言及したい。									
テキスト 参考文献									

科 目 名		児 童 ・ 青 年 心 理 学 講 義				担 当 者 氏 名		徳 田 完 二	
英 訳		Child and Youth Psychology							
科目コード	2057000	配当学年	2 - 4	授業形式	講 義	共 用 科 目		教	
単 位 数	2	開 講 期	前期	曜 時 限	水・2	教 室	第一講義室		
授 業 内 容									
児童期・青年期に至るまでの心理的発達について、主として力動的観点から理解し、さらに児童期・青年期に起こる臨床心理学的問題について、援助の方法も含めて理解することをめざす。なお、できるだけ、グループディスカッション、体験学習的な要素を取り入れる予定である。									
テキスト 参考文献	テキストは使用しない。必要に応じ資料を配布する。参考文献は授業の中で適宜紹介する。								

科 目 名		メ デ ィ ア 教 育 概 論				担 当 者 氏 名		吉 川 左紀子 齊 藤 智 子 安 増 生 楠 見 孝	
英 訳		Introduction to Media Education							
科目コード	2037000		配当学年	2 - 4	授業形式	講 義	共 用 科 目		
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	木・1	教 室	文学部新館第3講義室	
授 業 内 容									
本講義は現代社会におけるメディア・人間・教育の諸側面について、4人の教員のオムニバス方式により、講義する。下記の内容を含む予定である。なお、1回目の授業で4人の教員がイントロダクションを行う。									
1) 人の認知の特徴とマルチメディア (吉川) 2) 視聴覚情報の認知過程1 (吉川) 3) 視聴覚情報の認知過程2 (齊藤) 4) マルチメディアとヴァーチャル・リアリティ (齊藤) 5) メディアと人間の記憶 (齊藤) 6) 情報リテラシーと教育論 (子安) 7) 映像文法論：絵画、写真、映画、ビデオの表現と認知 (子安) 8) メディアと子ども (子安) 9) 認知的インタフェース (楠見) 10) マルチメディア活用教育 (楠見) 11) インターネット活用教育 (楠見) 12) インターネットの心理学的問題 (楠見)									
テキスト 参考文献	授業中に指示する								

科 目 名		健 康 心 理 学 講 義				担 当 者 氏 名		島 井 哲 志		
英 訳		Health Psychology								
科目コード	2048000		配当学年	3 - 4	授業形式	講 義		共 用 科 目		院
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	水・4		教 室	第一講義室	
授 業 内 容										
健康心理学は、最近、さらに発展をしようとしている、心理学の新しい応用領域である。ここでは、健康心理学の基礎的な研究と、その最新の動向を概観する。臨床心理学に隣接した健康心理学の領域と内容は、心身の健康問題に興味のある人たちにも、また、心理学が社会のニーズにどのように応えていくのかという問題に興味のある人にも参考になると考えられる。具体的な講義内容としては、健康心理学の理念と社会的役割、健康心理学の研究手法、健康に関連する行動と認知、行動修正法、政策提案といった基礎的な内容を理解した後、ストレス、食行動、運動、喫煙などの個別の健康問題、および、それらを取りまく性格要因や文化的要因などを取りあげる。また、健康心理学が役割を負うべき健康増進の最終的な目標は、幸福の達成にあるが、健康心理学の最近の発展のひとつとも考えられるポジティブ心理学の動向を取り上げて、この運動が心理学全体に与える意義について考察する。										
テキスト 参考文献	テキスト 島井哲志「健康心理学」培風館（参考図書 大竹恵子「女性の健康心理学」ナカニシヤ）									

科 目 名		知 覚 心 理 学 講 義 A				担 当 者 氏 名		齋 木 潤	
英 訳		Sensation and Perception A							
科目コード	2051000		配当学年	2－4	授業形式	講 義	共 用 科 目		他
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	火・3	教 室	吉田南共B03教室	
授 業 内 容									
「視覚科学」と呼ばれる認知科学の一分野の概説を行う。知覚心理学講義Aでは視覚科学のうち、「よく見てわかる（vision with scrutiny）」プロセスに焦点を当てる。（ちなみに後期に開講する知覚心理学講義Bでは「一目見てわかる（vision at a glance）」プロセスを考える。）多くのトピックを網羅的に概説するのではなく、いくつかの重要で興味深いトピックを「視覚科学」の特徴が浮き彫りになるように解説したい。 以下のトピックを取り上げる。 イントロダクション 視覚システムの基礎 物体認識 顔・文字の認知 視覚記憶 視覚的注意 マルチモーダルな統合 授業への出席、及び期末試験に基づき評価する。									
テキスト									
参考文献									

科 目 名		知 覚 心 理 学 講 義 B				担 当 者 氏 名		齋 木 潤		
英 訳		Sensation and Perception B								
科目コード	2052000		配当学年	2－4	授業形式	講 義		共 用 科 目		他
単 位 数	2		開 講 期	後期	曜 時 限	火・3		教 室	吉田南共B03教室	
授 業 内 容										
「視覚科学」と呼ばれる認知科学の一分野の概説を行う。知覚心理学講義Bでは視覚科学のうち、「一目見てわかる（vision at a glance）」プロセスに焦点を当てる。（ちなみに前期に開講する知覚心理学講義Aでは「よく見てわかる（vision with scrutiny）」プロセスを考える。）多くのトピックを網羅的に概説するのではなく、いくつかの重要で興味深いトピックを「視覚科学」の特徴が浮き彫りになるように解説したい。 以下のトピックを取り上げる イントロダクション 視覚システムの基礎 明るさ知覚と恒常性 テクスチャの知覚 シーンの知覚 視覚探索 眼球運動 授業への出席、及び期末試験に基づき評価する。										
テキスト										
参考文献										

科 目 名		発 達 心 理 学 講 義 A				担 当 者 氏 名		鯨 岡 峻															
英 訳		Developmental Psychology A																					
科目コード	2071000		配当学年	2 - 4	授業形式	講 義		共 用 科 目	他														
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	木・2		教 室	吉田南 4 共30教室														
授 業 内 容																							
人間は周囲他者たちとの関係の中で成長変化する。この変化過程を捉えるための理論（関係発達論）を提示することによって、受講生自身が自らの生涯過程を振り返る際の一助としたい。（なおこの講義は全学共通科目の「関係発達論の構築」と共通） 以下のタイトルについて授業を進める予定である。 <table><tr><td>第1週：受講許可者の決定</td><td>第2週：従来の個体能力発達の視点の問題点</td></tr><tr><td>第3週：関係論的視点はなぜ必要か</td><td>第4週：人間存在の根源的両義性について</td></tr><tr><td>第5週：子ども存在，大人存在の両義性について</td><td>第6週：共に生きる局面に現れる両義性</td></tr><tr><td>第7週：育てられる者から育てる者へ(1)</td><td>第8週：育てられる者から育てる者へ(2)</td></tr><tr><td>第9週：育てられる者から育てる者へ(3)</td><td>第10週：関係発達論と広義の発達臨床(1)</td></tr><tr><td>第11週：関係発達論と広義の発達臨床(2)</td><td>第12週：関係発達論と広義の発達臨床(3)</td></tr><tr><td>第13週：まとめ</td><td></td></tr></table> レポート試験に基づき評価する。										第1週：受講許可者の決定	第2週：従来の個体能力発達の視点の問題点	第3週：関係論的視点はなぜ必要か	第4週：人間存在の根源的両義性について	第5週：子ども存在，大人存在の両義性について	第6週：共に生きる局面に現れる両義性	第7週：育てられる者から育てる者へ(1)	第8週：育てられる者から育てる者へ(2)	第9週：育てられる者から育てる者へ(3)	第10週：関係発達論と広義の発達臨床(1)	第11週：関係発達論と広義の発達臨床(2)	第12週：関係発達論と広義の発達臨床(3)	第13週：まとめ	
第1週：受講許可者の決定	第2週：従来の個体能力発達の視点の問題点																						
第3週：関係論的視点はなぜ必要か	第4週：人間存在の根源的両義性について																						
第5週：子ども存在，大人存在の両義性について	第6週：共に生きる局面に現れる両義性																						
第7週：育てられる者から育てる者へ(1)	第8週：育てられる者から育てる者へ(2)																						
第9週：育てられる者から育てる者へ(3)	第10週：関係発達論と広義の発達臨床(1)																						
第11週：関係発達論と広義の発達臨床(2)	第12週：関係発達論と広義の発達臨床(3)																						
第13週：まとめ																							
テキスト 参考文献	(教科書) 鯨岡峻『関係発達論の構築』（ミネルヴァ書房） (参考書) 鯨岡峻『両義性の発達心理学』（ミネルヴァ書房）																						

科 目 名		発 達 心 理 学 講 義 B				担 当 者 氏 名		鯨 岡 峻															
英 訳		Developmental Psychology B																					
科目コード	2072000	配当学年	2－4	授業形式	講 義	共 用 科 目		他															
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	木・2	教 室	吉田南4 共30教室																
授 業 内 容																							
従来の〈子どもから大人へ〉という発達の見方を〈育てられる者から育てる者へ〉と捉え直す関係発達論の立場に立って、乳児期から青年期後期に至るまでの自己性の発達過程を明らかにする。(なおこの講義は全学共通科目の「関係発達論の展開」と合同) 以下のタイトルについて授業を進める予定である。 <table><tr><td>第1週：受講許可者の決定</td><td>第2週：〈子どもから大人へ〉の枠組みではなぜ不十分なのか</td></tr><tr><td>第3週：〈育てられる者から育てる者へ〉という枠組みから見えてくるもの</td><td>第4週：子産み・子育てを巡る今日の社会・文化的諸問題</td></tr><tr><td>第5週：乳幼児期の自己性の発達(1)</td><td>第6週：乳幼児期の自己性の発達(2)</td></tr><tr><td>第7週：乳幼児期の自己性の発達(3)</td><td>第8週：乳幼児期の自己性の発達(4)</td></tr><tr><td>第9週：学童期の自己性の発達とその問題</td><td>第10週：思春期の自己性の発達とその問題</td></tr><tr><td>第11週：青年期後期の自己性の発達とその問題(1)</td><td>第12週：青年期後期の自己性の発達とその問題(2)</td></tr><tr><td>第13週：まとめ</td><td></td></tr></table> レポート試験に基づいて評価する。										第1週：受講許可者の決定	第2週：〈子どもから大人へ〉の枠組みではなぜ不十分なのか	第3週：〈育てられる者から育てる者へ〉という枠組みから見えてくるもの	第4週：子産み・子育てを巡る今日の社会・文化的諸問題	第5週：乳幼児期の自己性の発達(1)	第6週：乳幼児期の自己性の発達(2)	第7週：乳幼児期の自己性の発達(3)	第8週：乳幼児期の自己性の発達(4)	第9週：学童期の自己性の発達とその問題	第10週：思春期の自己性の発達とその問題	第11週：青年期後期の自己性の発達とその問題(1)	第12週：青年期後期の自己性の発達とその問題(2)	第13週：まとめ	
第1週：受講許可者の決定	第2週：〈子どもから大人へ〉の枠組みではなぜ不十分なのか																						
第3週：〈育てられる者から育てる者へ〉という枠組みから見えてくるもの	第4週：子産み・子育てを巡る今日の社会・文化的諸問題																						
第5週：乳幼児期の自己性の発達(1)	第6週：乳幼児期の自己性の発達(2)																						
第7週：乳幼児期の自己性の発達(3)	第8週：乳幼児期の自己性の発達(4)																						
第9週：学童期の自己性の発達とその問題	第10週：思春期の自己性の発達とその問題																						
第11週：青年期後期の自己性の発達とその問題(1)	第12週：青年期後期の自己性の発達とその問題(2)																						
第13週：まとめ																							
テキスト 参考文献	(教科書) 鯨岡峻『育てられる者から育てる者へ』(NHKブックス)																						

科 目 名		発 達 心 理 学 講 義 C				担 当 者 氏 名		板 倉 昭 二	
英 訳		Developmental Psychology C							
科目コード	2073000	配当学年	3 - 4	授業形式	講 義	共 用 科 目		他	
単 位 数	2	開 講 期	前期	曜 時 限	火・2	教 室	文学部新館第4講義室		
授 業 内 容									
社会的認知（Social cognition）の発生および発達を，最新の研究報告をもとに，新生児から幼児期にわたって概説する。特に，自己認識，他者認識，他者間の関係性の認識に焦点を当てて，さまざまな研究を紹介するとともに，理論的なフレームの構築も試みる。									
テキスト 参考文献	主要参考書「自己の起源」（板倉昭二著，金子書房 1999）								

科 目 名		社 会 心 理 学 講 義				担 当 者 氏 名		杉 万 俊 夫	
英 訳		Social Psychology							
科目コード	(前) 2121001 (後) 2121002	配当学年	2－4	授業形式	講 義	共 用 科 目		他	
単 位 数	2	開 講 期	前・後期	曜 時 限	月・4	教 室	吉田南2共10教室		
授 業 内 容									
グループ・ダイナミクス ― 小集団，組織，群集，コミュニティ，社会等，集合体の全体的性質（集合性）の動態を研究する人間科学 ― の入門。人間科学としてのグループ・ダイナミクスの基本的立場，基礎的な概念や理論，フィールド研究の実例について，わかりやすく説明する。 1. 人間科学 2. グループ・ダイナミクス 3. フィールド研究の実例 4. 規範の理論 5. 活動の理論 6. グループ・ダイナミクスの数理 評価は，学期末試験に基づいてなされる。 詳細なシラバスおよび参考文献については，次のホームページの「教育（学部）」のページを参照のこと。 http://www.users.kudpc.kyoto-u.ac.jp/~c54175/									
テキスト 参考文献									

科 目 名		文 化 心 理 学 講 義				担 当 者 氏 名		北 山 忍															
英 訳		Cultural Psychology																					
科目コード	――	配当学年	2－4	授業形式	講 義	共 用 科 目		他															
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	集中	教 室																	
授 業 内 容																							
心理的システムと社会・文化システムとは、相互構成的関係にあるとする文化心理学の立場から、社会・発達・認知・臨床といった心理学の諸分野の知見を検討し、再統合を図る。まずは、文化心理学の理論的方向性を例を通じて説明した後、文化の生物学的基盤、歴史性を研究し、ついで、関連の実証研究を概観する。 以下の流れで、古典的研究と最新の实証研究をあわせて紹介することにより、文化心理学の成果を総覧する。 <table><tr><td>1. 文化心理学とは何か</td><td>文化と心の相互構成的関係・自己の集合的構成過程・暴力と名誉の文化</td></tr><tr><td>2. 文化の生物学的基盤</td><td>ヒトの進化・幼形成熟・心の理論</td></tr><tr><td>3. 文化的自己観</td><td>相互独立と相互協調・Max Weber と欧米資本主義社会の宗教的基盤・日本の社会／文化史</td></tr><tr><td>4. 方 法</td><td>価値・態度・性格特性調査の比較文化的妥当性・Poly-vocal ethnography: Preschools in three cultures・実験的方法</td></tr><tr><td>5. 認 識</td><td>自己認識・社会的推論・言語相対性仮説・認知と文化・道徳判断</td></tr><tr><td>6. 感 情</td><td>顔と感情・感情の社会・文化的次元・主観的幸福感</td></tr><tr><td>7. 動機づけ</td><td>自己批判的傾向と自己向上・暗黙の自己愛着</td></tr></table> 評価は、授業・調査参加、試験に基づいてなされる。 履修要件は、特にないが、受講人数を制限することがある。										1. 文化心理学とは何か	文化と心の相互構成的関係・自己の集合的構成過程・暴力と名誉の文化	2. 文化の生物学的基盤	ヒトの進化・幼形成熟・心の理論	3. 文化的自己観	相互独立と相互協調・Max Weber と欧米資本主義社会の宗教的基盤・日本の社会／文化史	4. 方 法	価値・態度・性格特性調査の比較文化的妥当性・Poly-vocal ethnography: Preschools in three cultures・実験的方法	5. 認 識	自己認識・社会的推論・言語相対性仮説・認知と文化・道徳判断	6. 感 情	顔と感情・感情の社会・文化的次元・主観的幸福感	7. 動機づけ	自己批判的傾向と自己向上・暗黙の自己愛着
1. 文化心理学とは何か	文化と心の相互構成的関係・自己の集合的構成過程・暴力と名誉の文化																						
2. 文化の生物学的基盤	ヒトの進化・幼形成熟・心の理論																						
3. 文化的自己観	相互独立と相互協調・Max Weber と欧米資本主義社会の宗教的基盤・日本の社会／文化史																						
4. 方 法	価値・態度・性格特性調査の比較文化的妥当性・Poly-vocal ethnography: Preschools in three cultures・実験的方法																						
5. 認 識	自己認識・社会的推論・言語相対性仮説・認知と文化・道徳判断																						
6. 感 情	顔と感情・感情の社会・文化的次元・主観的幸福感																						
7. 動機づけ	自己批判的傾向と自己向上・暗黙の自己愛着																						
テキスト 参考文献	(教科書) 北山忍『自己と感情：文化心理学による問いかけ』(共立出版) (参考書) 適宜指示する																						

科 目 名		認 知 心 理 学 講 義 I				担 当 者 氏 名		苧 阪 直 行	
英 訳		Cognitive Psychology I							
科目コード	2074000		配当学年	3 - 4	授業形式	講 義		共 用 科 目	他
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	月・5		教 室	文学部新館第4講義室
授 業 内 容									
視覚や言語や意識などの高次認知にかかわるワーキングメモリと意識の役割について考える。とくにワーキングメモリが視覚や言語の情報統合に果たす役割について高次脳機能を通して概説する。									
テキスト 参考文献	文献：苧阪直行（監訳）脳と意識のワークスペース（パース著），協同出版（2004）								

科 目 名		認 知 心 理 学 講 義 II				担 当 者 氏 名		蘆 田 宏	
英 訳		Cognitive Psychology II							
科目コード	2075000	配当学年	3 - 4	授業形式	講 義	共 用 科 目		他	
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	月・5	教 室	文学部新館第4講義室		
授 業 内 容									
人間の視知覚の諸機能とそのメカニズムについて概説する。 主なトピック：眼のしくみ，眼から脳へ，視覚の神経情報処理，色覚と表色，空間知覚，動き知覚，自己運動感覚，錯視，顔知覚，など									
テキスト 参考文献									

科 目 名		比 較 心 理 学 講 義				担 当 者 氏 名		藤 田 和 生	
英 訳		Comparative Psychology							
科目コード	2076000	配当学年	3 - 4	授業形式	講 義	共 用 科 目		他	
単 位 数	2	開 講 期	前期	曜 時 限	月・2	教 室	文学部新館第6講義室		
授 業 内 容									
ヒトの認知機能は数十億年にわたる進化の所産である。化石種の認知機能が直接的に調べられない以上，他の現生動物種の認知機能を分析し，相互に比較することが，その過程を跡づけるための可能な唯一の方法である。講義では，学習の原理について復習したあと，比較心理学的観点から，多様な動物種の感覚や知覚，記憶，言語，概念形成，社会的知性，意識などについて現在までに得られた諸事実を紹介し，心の多様性とその進化について論じるとともに，ヒトの心を動物たちの心の中にどのように位置づければよいかを考える。									
テキスト 参考文献	主要参考書：「比較認知科学への招待」（藤田著，ナカニシヤ出版，1998）								

科 目 名		神 経 生 物 心 理 学 講 義				担 当 者 氏 名		櫻 井 芳 雄	
英 訳		Neurobiological Psychology							
科目コード	2077000		配当学年	3 - 4	授業形式	講 義		共 用 科 目	他
単 位 数	2		開 講 期	後期	曜 時 限	月・2		教 室	文学部新館第6講義室
授 業 内 容									
脳の働きを担う神経メカニズムについて、神経科学的観点から解説する。主なるテーマは、脳科学の目的と方法、脳の構造と神経細胞、視覚情報処理、運動情報処理、記憶情報処理、情動情報処理、精神疾患と脳、等である。									
テキスト 参考文献	主要参考書：「考える細胞ニューロン」（櫻井芳雄著，講談社 2002）								

科 目 名		多 変 量 解 析 論				担 当 者 氏 名		森 崎 礼 子	
英 訳		Multivariate Analysis							
科目コード	2078000	配当学年	3－4	授業形式	講 義	共 用 科 目		他・院	
単 位 数	4	開 講 期	通年	曜 時 限	金・4, 5 (第1・3・5隔週)	教 室	文学部情報処理端末室		
授 業 内 容									
調査や実験から得られたデータは、多くの場合、そのままでは何を結論できるのか判然としない。そこで、統計学的手法を用いて条件間でデータを比較したり、変数間の関係を調べたりする作業が不可欠である。この授業では、基礎的なデータ解析の手法について解説し、パソコンを用いてデータ解析の実習を行う。									
テキスト 参考文献									

科 目 名		乳 幼 児 の 心 理 学				担 当 者 氏 名		内 山 伊知郎	
英 訳		Infant Psychology							
科目コード	2079000	配当学年	3－4	授業形式	講 義	共 用 科 目		他・院	
単 位 数	2	開 講 期	前期	曜 時 限	金・2	教 室	文学部新館第5講義室		
授 業 内 容									
本講義では、乳幼児期の発達機序を解説する。乳児の発達に関する理論は、Darwin の進化論に根拠をおく進化論的、生物学的モデルを中心として検討が進められてきた。これは、発達機序が生得的に脳内にプログラムされていると仮定する考え方であるが、近年この考え方と異なる理論が展開されている。 これは発達を機能的に捉えようとする考え方である。この立場では、乳児と環境との相互作用に焦点をあてて、認知・感情の出現を機能的に明らかにしようとしている。 ここでは、乳幼児期の認知・感情発達について、機能的な考え方に基づいた知見を中心に紹介と解説を行う。以下に、内容の概略を記す。変更があれば、第1回講義で伝える。 1. オリエンテーション 2. 乳幼児心理学の研究法と展開 3. 機能的な発達とは 4. 自己移動経験と感情発達 5. 自己移動経験と認知発達 6. 自己受容感覚の発達 7. 随伴性の獲得 8. 共感性の発達 9. 自己意識感情の発達 10. 国際赤ちゃん学会トピックス 11. 世界の赤ちゃん研究動向 12. その他									
テキスト 参考文献	テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。								

科 目 名		教 育 認 知 心 理 学 基 礎 演 習 A				担 当 者 氏 名		齊 藤 智	
英 訳		Undergraduate Seminar: Cognitive Psychology in Education A							
科目コード	2045000		配当学年	2	授業形式	課題演習		共 用 科 目	
単 位 数	2		開 講 期	後期	曜 時 限	木・2		教 室	第1演習室
授 業 内 容									
認知、言語、思考、記憶、発達、社会認知、感情など、認知系心理学に関心を持つ2回生を対象にした入門セミナーである。受講者は、全員が当日までに指定の文献を読み、担当の発表者の内容紹介の後、全体で討議する形式で授業をすすめる。 受講者数は、20人に制限する。第1回目の授業で20人を超える受講希望者があった場合、抽選により受講者を決定する。 テキストとして、以下の文献を含む数冊の本を読む。 ・正高信男（著）「子どもはことばをからだで覚える」中公新書									
テキスト 参考文献									

科 目 名		教 育 心 理 学 コ ロ キ ア ム I A ・ I B				担 当 者 氏 名		I A：齊藤 智	
英 訳		Colloquium on Educational Psychology I A ・ I B						I B：皆藤 章 川部哲也	
科目コード	(I A) 2420000 (I B) 2421000	配当学年	3	授業形式	課題演習	共 用 科 目			
単 位 数	各 2	開 講 期	前 ・ 後 期	曜 時 限	木 ・ 2	教 室	第 2 演 習 室		
授 業 内 容									
この授業では、教育心理学にかかわる重要な文献や最新の文献にふれ、その中でどのようなことが課題として取り上げられ、どのような方法を用いて研究されているのか、考察や議論がどのように展開されているのかを、受講者各自が主体的に学習し、発表することが求められる。こうした過程を通して、教育心理学についての認識を深めていくことがこの授業のねらいである。具体的な内容については最初の授業でオリエンテーションを行う。									
テキスト 参考文献									

科 目 名		教 育 心 理 学 課 題 演 習 I				担 当 者 氏 名		齊 藤 智 杉 浦 健	
英 訳		Seminar on Educational Psychology I							
科目コード	2406000	配当学年	3 - 4	授業形式	課題演習	共 用 科 目			
単 位 数	4	開 講 期	前期	曜 時 限	金・4, 5	教 室	第2 演習室		
授 業 内 容									
学生が主体となって、実験的心理学研究を行う。扱うテーマは自由である。学生は複数の班に分かれ教官のアドバイスの下で研究を行う。本授業は卒業論文作成の準備段階として、自ら主体的に実験計画を立て、実験を実施し、統計的分析を行い、その結果をまとめ、考察を加えて発表することを目的とする。									
テキスト 参考文献									

科 目 名		認 知 心 理 学 課 題 演 習				担 当 者 氏 名		楠 見 孝	
英 訳		Seminar on Cognitive Psychology							
科目コード	2545000	配当学年	3 - 4	授業形式	課題演習	共 用 科 目			
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	金・4	教 室	第2演習室		
授 業 内 容									
本演習では、各自関心のある研究テーマとその手法についての論文の精読、発表と議論を通じて、卒論研究で取り組む研究テーマについて明確な問題意識をもち、研究手法を身につけることをめざす。受講生の人数にもよるが時間的に可能であれば、後半は卒業研究の前段階となる予備調査・予備実験を実施するところまで進みたいと考えている。認知心理学の範囲にとらわれず、社会、感情、人格、発達、教育等の幅広い研究領域を対象として実施する。 昨年度の授業内容は、http://kyoumu.educ.kyoto-u.ac.jp/cogpsy/kusumi/ の授業用ホームページに紹介している。									
テキスト 参考文献	授業中に指示。上記の授業用ホームページで紹介する。								

科 目 名		教 育 心 理 学 コ ロ キ ア ム Ⅱ				担 当 者 氏 名		伊 藤 良 子 子 安 増 生 川 部 哲 也		
英 訳		Colloquium on Educational Psychology Ⅱ								
科目コード	2405000		配当学年	4	授業形式	課題演習		共 用 科 目		第一講義室
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	木・2		教 室		
授 業 内 容										
卒業論文の指導を中心に行う。受講者は、各自の卒論の研究計画発表を行う。 問題（問題意識、先行研究の紹介、研究仮説など）と方法（対象者、材料、手続きなど）を中心に事前のレジュメを作成し、それに基づいて発表する形式で進められる。 また、すべての受講者は積極的にディスカッションに参加することが求められる。 卒業指導教官の決定の参考ともなるので、卒論を書く予定の者は履修することが望ましい。										
テキスト 参考文献										

科 目 名		臨 床 心 理 学 課 題 演 習				担 当 者 氏 名		河 合 俊 雄 川 部 哲 也	
英 訳		Seminar on Clinical Psychology							
科目コード	2482000	配当学年	3 - 4	授業形式	課題演習	共 用 科 目			
単 位 数	4	開 講 期	通年	曜 時 限	月・2	教 室	文学部東館第3実習室		
授 業 内 容									
中級テスト実習：初級テスト実習を更に深めて、テストの意義と内容の理解を求めること、また諸テスト間の相互関係を検討する。 心理療法事例の検討も含まれる。									
テキスト 参考文献									

科 目 名		教 育 心 理 学 講 読 演 習 I				担 当 者 氏 名		子 安 増 生	
英 訳		Reading on Educational Psychology I							
科目コード	2411000		配当学年	3 - 4	授業形式	講読演習		共 用 科 目	院
単 位 数	2		開 講 期	前期	曜 時 限	水・3		教 室	第一講義室
授 業 内 容									
文献講読（英）：テキストとして、次の文献の中から「問題解決と創造性」に関する章を軸に読み進める。 Sternberg, R. J. 2006 <i>Cognitive Psychology (Fourth Edition)</i> , Wadsworth. 英和辞典（電子辞書を推奨）を毎回授業時に持参すること。 評価は、出席・発表点を中心とする。									
テキスト 参考文献	テキストは、授業時に配布する。								

科 目 名		教 育 心 理 学 講 読 演 習 II				担 当 者 氏 名		石 王 敦 子	
英 訳		Reading on Educational Psychology II							
科目コード	2412000	配当学年	3 - 4	授業形式	講読演習	共 用 科 目		院	
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	月・2	教 室	第2演習室		
授 業 内 容									
文献講読（英）テキストとして、Groome, D. et al., (1999) <i>An Introduction to Cognitive Psychology — Processes and disorders —</i>, UK: Psychology Press. を読む予定である。 この本は認知心理学の入門書であるが、知覚・記憶・言語・思考などに関する正常な認知過程と、それらに対応する認知の障害（失認症や健忘症など）が対になって章立てされている。平易な英語で読みやすいので、テキストを精読しつつ、さまざまな議論をしながら認知心理学についての理解を深めることが本授業の目的である。 評価は、出席と発表点にもとづいてなされる。									
テキスト 参考文献	授業時に配布する。								

科 目 名		臨 床 心 理 学 講 読 演 習 I				担 当 者 氏 名		禹 鍾 泰	
英 訳		Reading on Clinical Psychology I							
科目コード	2506000	配当学年	3 - 4	授業形式	講読演習	共 用 科 目		院	
単 位 数	2	開 講 期	前期	曜 時 限	火・3	教 室	第4演習室		
授 業 内 容									
「Jung 心理学における神について考える。教材としては Donald R. Dyer の “Jung’s Thoughts on God — Religious Depths of the Psyche —” を取り上げる。方法としては、受講生全員で教材を丁寧に読んでいく。必要に応じて参考文献を紹介する。」									
テキスト 参考文献									

科 目 名		臨 床 心 理 学 講 読 演 習 II				担 当 者 氏 名		鶴 田 英 也	
英 訳		Reading on Clinical Psychology II							
科目コード	2504000	配当学年	3 - 4	授業形式	講読演習	共 用 科 目		院	
単 位 数	2	開 講 期	後期	曜 時 限	月・1	教 室	第2演習室		
授 業 内 容									
Jung, C. G. の「哲学の樹」をドイツ語で読みます。本論文は難解であり、未だ完全な邦訳は出版されていません。しかし、それこそドイツ語と格闘しながら日本語訳をしていくと、たくさん提示されている樹木画のイメージへの関わりが自然と深まっていって、体験的に「なるほどなあ」と感じることもあると思います。 授業形式は分担を決めての輪読ですが、描画があれば全員で検討する時間を設けて、イメージを深めていく体験をしたいと思っています。初回到テキストを配布し分担を決めるので、単位取得希望者は必ず出席して下さい。									
テキスト 参考文献	Der Philosophische Baum, Studien über alchemistische Vorstellungen, Walter-Verlag (Gesammelte Werke/von C. G. Jung; Bd.13)								

科 目 名		臨 床 心 理 学 実 習 I				担 当 者 氏 名		川 原 稔 久	
英 訳		Practice in Clinical Psychology I						北 口 雄 一 山 口 素 子	
科目コード	2722000	配当学年	3 - 4	授業形式	実 習	共 用 科 目			
単 位 数	2	開 講 期	通年	曜 時 限	月・3, 4	教 室	第5 演習室他		
授 業 内 容									
川原稔久：少人数のグループで、心理面接の各種技法を自己体験し、心理臨床で生じる関係性や表現の特質を学ぶとともに、理解や介入の基礎となる姿勢を養う。具体的には、ロールプレイによるカウンセリング実習、遊戯療法実習、描画や箱庭療法の実習などである。 北口雄一：技法を頭で学ぶのではなく、自分の体験を通して、カウンセリングの中では何が起きているのか、何がクライアントを癒すのかというテーマに焦点をあてたい。具体的には、描画や箱庭などをベアないしはグループで体験することも実習に含まれる。 山口素子：心理療法の技法を自分の体験を通して学ぶ：表現療法（なぐり描き、フィンガーペインティング、コラージュ、箱庭）、遊戯療法（ビデオ観察）、カウンセリング（ロールプレイ）、グループ体験（おとぎ話を演じる）等 実習の形態は、各教員のグループに分かれて、臨床心理学実習を行う。									
テキスト 参考文献									

科 目 名		臨 床 心 理 学 実 習 II				担 当 者 氏 名		岩 田 純 一	
英 訳		Practice in Clinical Psychology II							
科目コード	2723000	配当学年	3－4	授業形式	実 習	共 用 科 目			
単 位 数	2	開 講 期	通年	曜 時 限	金・1， 2	教 室	第5 演習室他		
授 業 内 容									
実際の保育の場に出かけ、観察を行い、子どもの心の動きを捉える訓練をする。									